

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
TEL：03-3259-0662
FAX：03-3293-3319
http://www.nu-dobokukai.com

地盤の会が発足

企画部会(森元部会長)の活動の一環として地盤の会(山本毅史委員長、環境管理センター)が発足した。地盤の会は、実務者向けの技術研究会で、昨年は2回の研究会を開催した。

また、地盤の会のほかにもPC技術研究会、耐震技術研究会の準備が進められており、近く発足する予定である。

地盤分野における維持管理の現状と将来

第1回研究会
平成14年6月28日(金)
アルカディア市ヶ谷私学会館にて
司会：新井新一氏(ダイヤコンサルタント)

一般講演「地盤技術者と資格」：三嶋信雄氏(川崎地質) 技術講演「高有機質土の沈下と変形」：鎌尾彰司氏(理工)

第2回研究会
平成14年10月25日(金)
理工学部駿河台校舎特別会議室にて
司会：佐々木 勉(株)シック



異業種交流会 土木と建築の交流

第2回パネル討論会異業種交流会
平成14年5月31日(金) 理工学部駿河台校舎において
異業種交流会 第2回パネル討論会が開催された。演題は、「土木と建築の交流」。

司会：川田建設(株)取締役技術部長 野田行衛

パネラー：(株)オリエンタルコンサルタンツ代表取締役社長 廣谷彰彦
日本大学理工学部社会交通工学科 教授 高田邦道
日本大学理工学部建築学科 教授 片桐正夫
工科大学会相談役 桜建会 評議員 矢吹慎一



日本大学理事に就任



平成14年9月10日、本会副会長の松田慎一郎氏(元株)が、日本大学理事に就任した。

学識経験理事として学外からの常務登用は珍しく、理工土木出身としてははじめてとなる。

就任にあたり、組織の量ではなく質が問われている時代には染み付いた意識や体質の抜本的な改革が必要であると、外部からの評価に十分耐えうる能力の不断の研さんと、内外のネットワーク構築への弛まぬ努力を基本に据え努力すると語られた。

日本大学名誉教授に



平成14年6月17日、本会会長の山田清臣先生が日本大学より名誉教授の称号を授与された。

山田清臣先生は昭和31年本学卒業後、37年より約40年にわたり本学に貢献されてきた。また、平成5年より日本大学本部総合学生部長の要職に就かれておられた。そして、昨年3月未定年によりご退職された。現在は非常勤講師として学部大学院で教鞭を執られている。

特別講演会開催

平成14年6月28日(金)総会に先立ち企画部会主催の特別講演会が開催された。テーマは「都市再生」。

はじめに「都市再生への挑戦」と題して松田慎一郎氏(本会副会長、日本大学常務理事)より概要が述べられた後、岸井隆幸教授(理工土木)により各論について講演があった。関連記事2ページ最新線。

平成14年9月21日(土)、西安理工大学との日中共同セミナー(理工学部船橋校舎図書視聴室にて)が開催された。技術立国としての日本の建設産業と官・民・パ



第25回理工学部学術賞等表彰式開催

去る11月14日(金)、経団連会館(東京大手町)国際会議場にて第25回理工学部学術賞等表彰式が開催された。当表彰式においては、理工学部学術賞者への表彰のほか、平成13年10月から平成14年9月までの間に学協会から功績を認められた方々および

び本学にて学位を取得した方々の栄誉をたたえ表彰がなされた。理工学部土木工学科からは、日大土木部会長の山田清臣先生(日本大学名誉教授)、田中和博先生(理工土木教授)および後藤浩助先生らが表彰を受けた。

学位取得者紹介

日本大学においてのO・B一〇名が学位を取得した。(授与年月2002.3~2003.3)

課程博士
博士(工学) 川畑安弘(43年卒、世界銀行 東アジア・太平洋地域局 交通運輸部)
論文名：中国における道路ファイブヒリテイスティティ実施方法の評価及び改善事項
博士(工学) 山田泰生(37年卒、株)ジヤバンテクノロジ

論文名：海岸堆砂工に関する実験的研究・連続平行堤について
論文名：砂浜海岸における地形変化の解釈に関する美証的研究・北海道沿岸を中心として
博士(工学) 戸巻昭三(28年卒、株)クマシロシステム設計
論文名：砂浜海岸における地形変化の解釈に関する美証的研究・北海道沿岸を中心として
博士(工学) 高橋良文(46年卒、東京都下水道局計画調整部)
論文名：小口径下水道管渠修正工法の設計法に関する研究
博士(工学) 鈴木 宏(43年卒、東京都公営企業管理者下水道局)
論文名：合流式下水道における伏越しに起因した諸問題に関する研究
博士(工学) 近藤 勉(38年修卒、日本大学理工学部助教)
論文名：首都圏域における雨水制御のための下水道整備に関する研究
博士(工学) 羽柴秀樹(H6年修卒、日本大学理工学部助手)
論文名：高分解能衛星画像を用いた数値屋根モデルの開発と都市環境の3次元評価手法
博士(工学) 寺山 喜信(52年修卒、郡山市 財務部工事検査課)
論文名：好気性ろ床を用いた循環式硝化脱窒法の実用化研究

遠藤篤康先生叙勲
本学名誉教授の遠藤篤康先生(専門：橋工学)が、昨春の叙勲で勲三等瑞宝章を受賞された。

また、教え子らが発起人と

なり、去る8月31日にお茶の水ホテル聚楽において受賞記念会が開催された。

当日は大勢の教え子が遠藤先生の叙勲のお祝いに駆けつけた。

化学工学会技術賞受賞

理工学部教授 田中和博
化学工学会技術賞は化学工学に関するまたは化学関連産業の技術に関して特に業績のあった個人もしくは共同研究者・開発者に授与されるものである。

平成13年度は渡辺康彦(株)田工業株式会社研究開発本部 平成11年本学理工学研究科博士後期課程修了)を代表者として田中和博(理工学部土木工学科教授)、小池秀三(日本下水道事業団)、安田 勉(東京都下水道局)、楠原 英司(東京都下水道局)の計5名の共同研究チームに対して授与された。

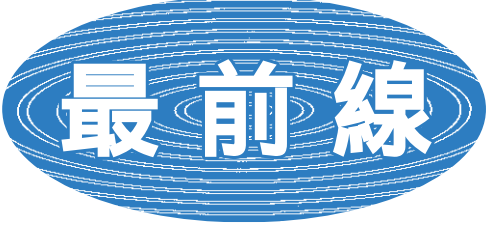
受賞の業績名称は、造粒濃縮法の開発とその実用化研究である。環境問題の分野として解決要求の非常に高い、下水処理工程で発生する有機性汚泥の処理方法に関する、新しいシステム開発に

チャレンジし、これを完成させ問題解決に貢献したことが評価された。

この汚泥処理の方法は、2液法金属塩凝集剤と両性高分子凝集剤により汚泥を凝集させるとともに、反応層において最適な攪拌状態と循環流を発生させて、「まりも」状の凝集ベレットに固めて分離濃縮することにより非常に効率よく汚泥を処理する方法である。

薬剤による汚泥調質の工夫と、反応槽における流動制御と固液分離に対する工夫がなされ装置のスケールアップに対する化学工学的解析を行い、処理効率の高い技術が完成した。

本技術は、現在までに百を超える実績があり、しかも大規模なものから車載式までという広い適用範囲で実施されている。



都市再生の課題と展望

理工学部土木工学科教授

岸井 隆幸



望ましい都市像を 目指して

わが国の総人口は早晩減少し、全体としての土地需給関係は大きく緩んでくると見込まれる。その意味ではこれまで戦後からの復興、都市拡大に対抗する新市街地の先行的整備と常に需要に追いつけられてきたわが国の都市整備は全く新しい局面に入ったといえる。生活を取り巻いている地球環境は産業革命が引き起こした先進諸国の爆発的な人口膨張で既に大きく病んでいる。しかも今後開発途上国に比べて人口集中、生活環境の悪化から生まれた都市像、生活像を提供した。そして自動車が登場したとき、近隣住区論、ロードバーステム、コルビジエの空へ伸びる都市像、フランクロイドライトの拡散自己独立型の都市像が描き出された。今我々は空間を越える情報システムを手に入れ、コンピュータは大量の情報処理を手伝ってくれるようになったが、従来の都市対農村、工業対住宅を超える新しいより複雑な対立に直面している。ヒートアイランド現象や二酸化炭素問題、空

上国なかんずくその大都市ではこれまでを上回るような急激な人口爆発が予想される。現在はまだ南北間の生活水準格差はきわめて大きい。地球上の全ての人が今のアメリカのライフスタイルを求めると船自身に沈んでゆく危険性すらある。都市空間のあり方の前に、都市生活のあり方そのものが問われている。近代都市計画は産業革命によって引き起こされた都市への人口集中、生活環境の悪化から生まれた都市像、生活像を提供した。そして自動車が登場したとき、近隣住区論、ロードバーステム、コルビジエの空へ伸びる都市像、フランクロイドライトの拡散自己独立型の都市像が描き出された。今我々は空間を越える情報システムを手に入れ、コンピュータは大量の情報処理を手伝ってくれるようになったが、従来の都市対農村、工業対住宅を超える新しいより複雑な対立に直面している。ヒートアイランド現象や二酸化炭素問題、空

都市再生とは？

そもそも今使われている「都市再生」という言葉には実は二つの意味合いが含まれている。

一つは社会構造の大きな変化点を迎えて都市整備の方向性、基本的な考え方を今一度再構築しなければならぬというかなり大きな歴史的な視点から使われている。この場合、その脈絡から出てくる結論は必ずしも短期勝負ではなく、従って現時点の制度や経済財政状況のみを前提としているわけでもない。そしてもう一つは昨年政府に設置された都市再生本部の活動に代表される緊急経済対策としての「都市再生」である。こちらは現時点での社会経済状況を色濃く反映するもので、できるだけ速やかに民間の活力・資金を最大限に活かして土地の流動化をはかり、わが国経済の景気浮揚に役立てることが大きな使命である。都市再生緊急措置法が10年間限定の「都市再生緊急整備地域」に言及しているように短期勝負、規制緩和、民間主導を鮮明に意識している。

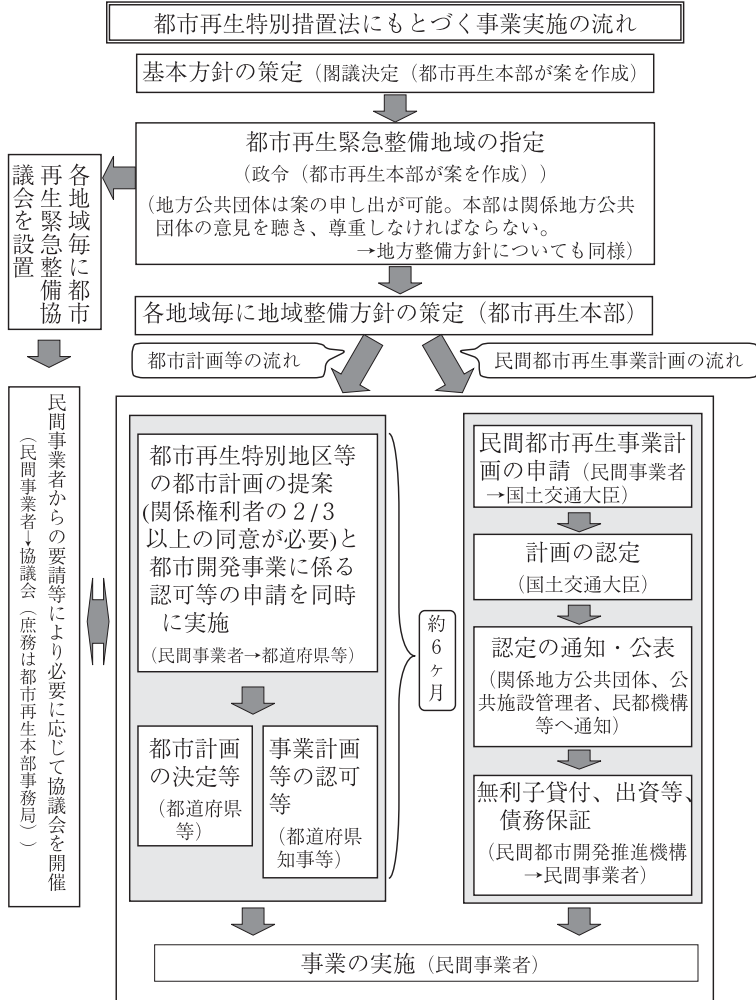


図1. 都市再生特別措置法にもとづく事業実施の流れ

緊急経済対策としての都市再生

もう一つの「都市再生」、緊急経済対策の背景はバブル崩壊、経済低迷・投資不振である。つまり、我が国の構造改革の一環として都市再生を強力に推進すること、特に1400兆円を上回ると言われている個人金融資産を意識して周辺地域への起爆剤となるような地域に、集中的、戦略的に資金やノウハウなどの民間の力を振り向けようという論旨である。従ってその課題を単刀直入にいえば、「スピード」と「民間主導性」である。いろいろな課題を解決するプロジェクトの提案もそのスピードと民間主導性がなければ意味付けは大きく減せられることになる。先般成立した都市再生特別措置法はその一部を担うもので既存の都市計画規制を全て適用除外として自由度の高い計画を定める都市再生特別地区が創設されたし、民間事業者などによる都市計画の提案制度も確立

次世代への橋渡しを

都市を巡る施策「都市再生」がこれほどまでに世間の耳目を集めたことは今までなかった。その意味では都市のあり方を多くの人を交えて、しかも腰を据えて議論する大変良い機会である。都市の構造はどのようにあるべきか、そこへ至るまでの道のりと今日抱えている課題をどのように結

拡声器

現在、日本の建設業をとりまく情勢は大変厳しく、公共投資関係費を前年比3%減に絞る方針があり、また道路4公団の民営化が検討され、世間の話題を集めている。建設業に携わる者としては高速道路の凍結は生活に直結する問題であり、反対の意見が多数を占めると思われる。しかし一般の人からすれば無駄な税金投入がなくなり、より良いサービスが提供されるので、賛成の意見が多いことであろう。我々は本来公共事業を整備することが仕事であり、また喜びであるので、このように世間と認識のずれが生じてしまうことは大きな問題である。厳しい情勢の中で理想論と言われながらも、国民の利益を第一と考え、厳しい

結論も真摯に受け止めた上でさらなる施策や技術を開発、検討すべきではないだろうか。(建設会社勤務 32歳)

入社以来支店内勤務での設計業務に携わってきた私は、現在、工事現場での仕事に従事している。自分が設計した構造物の施工であるので、期待と不安が入り交じっている。支店内勤務中は、設計業務とは別に施工を行っている現場への技術的支援を行っている。上司から、技術の進歩に伴って、今までのような問題が発生し、それを見極めることが大切と言われた。それ以来、平日頃から問題を洗い出し、自分なりの解決策を蓄積していくことに心がけている。(建設会社勤務 33歳)

びつけるのか。都市の構造、都市の空間は我々の世代だけに影響を与えるものではない。たとえ短期的な投資であっても、都市構造の改編は将来の主体への継承を意図することが必要であり、その判断を真剣に行うことは現在を生きる我々の世代の責務である。かつて、1850年代にパリはナポレオンの力を背景に大改造された。歴史ある都パリといえども決して大昔から今のような空間がごく自然に身につけていたわけではない。「麗しのパリ」の印象を与える空間構成はわずか150年前に形作られたのである。その意味ではスラムを一気にクリアランスし、下水道を完備させ、数多くの緑豊かな街路とルールに基づいた建築を生み出したナポレオン権力の大手筆は現在のパリを創造したとてつもない「都市再生」であった。翻って戦後50年を経て世界でも有数の富める国になった日本はこの時代に何を残せたのだろうか？ また、今残そうとしているものは将来どのように

以上

明日のいばぶぎをひらく

特別寄稿

茨城県土木部長 坂入 健

日本大学校友の皆様、各地でご活躍の事とお慶び申し上げます。

茨城県土木部長に就任致し、以来8ヶ月がすぎようとしております。この間、日本社会の変化は著しく、我が県



茨城県をたどると、8時半の太陽と表現した人が居りました。可住地面積は全国第4位、農業生産額は第4位、工業生産額は第9位と隠れた大県であり、首都東京に近接するとともに基幹産業の集積などの経済的優位性を有しており、今後の大きな発展可能性を持った地域といえます。この原稿を皆さんが目にする頃には民営化委員

鹿島港、大洗港、日立港の4つの重要港湾の整備などを重点的に進めております。さて、私の県庁生活の多くは技術者として「橋づくり」に携わって参りました。大河川はもろろんですが小さな川でも橋が架けられると世間が変わります。こちら側の世界と向こう側の世界がつながり、今まで交流の無かった地域に新たな人やものの交流が生まれ、ひいては地域の発展や活性化、生活環境のより一層の向上に繋がって参ります。

そして、21世紀のリーディング県として個性と活力あるいばぶぎづくりのため、社会資本の整備を着実に進め、後輩たちに引き継ぎたいと考えております。

就職セミナー開催

総務部会の企画による学生のための就職セミナーが3つの会場で開催された。土木分野を取り巻く建設事業の変化に対して、最新の情報を的確に伝えることが目的で、これからの官庁土木・行政、建設業の現状と将来、これからのコンサルタントと題して講演・質疑が行われた。就職活動を控えた学生にとって大変貴重な場となった。

- 理工学部駿河台会場
日時：11月22日(金)
場所：駿河台校舎7号館
オリエンテーション：曾我部 博氏(パステムS.Z 協会)
- 新井弘文氏(元防衛施設局) 講師：
佐伯謙吾氏(東京都下水道局)
- 西松好朗氏(西松建設(株))
伊藤澄雄氏(清水建設(株))
三好敬直氏(社)建設コンサルタンツ協会)
参加学生数：約100名
- 工学部会場
日時：11月29日(金)
場所：ハットNE大講堂
オリエンテーション：根本 亮氏(日本風力開発(株))
講師：
渡辺清風氏(株)東京設計事務所)
長田幸治氏(大成建設(株))
関 耕一氏(飛鳥建設(株))
盛武建二氏(会計検査院)
- 理工学部船橋会場
日時：12月7日(土)
場所：階段教室(大)
オリエンテーション：松田慎一郎氏(日本大学常務理事)
講師：
軽部孝夫氏(大成建設(株))
佐藤賢司氏(パシフィックコンサルタンツ(株))
谷川敏治氏(日本道路公団)
磯ヶ谷英雄氏(東日本旅客鉄道(株))
森下庄三氏(都市基盤整備公団)
野田智輝氏(経済産業省)
沼里 明氏(日本信号(株))
参加学生数：約七五名

最先端の情報施設

駿河台校舎1号館完成



理工学部駿河台校舎1号館が完成、三月八日(土)、新装なった1号館で竣工式と竣工祝賀会が行われ、学部の新しいシンボル完成を祝った。



新1号館は、地下一階、地上七階建て。一階は教務課、学生課などの事務局二階は大・中・小の会議室、三・六階に教室とCSTホール、七階にメディア特別室が配置されている。また、最先端ネットワーク環境を整備し、将来の情報発信基地への対応を可能にしてある。

会員を募集します

入会を希望される方へ

会報では、年2回の発行を通じて各部会の活動状況を中心に会員の皆様に情報提供をして参ります。会報をご覧になりさらに本会への理解を深めていただければと存じます。以下に設立趣意、役員、会務分掌について改めて紹介させていただきます。

本会の趣旨に賛同いただき、入会頂ける方がいらっしゃいましたら、下記の事務局まで一報下さい。会則、入会申込書等をお送りさせていただきます。

設立趣意

我々の母校日本大学は、私学の雄として幾多の人材を輩出し、学術文化はもとより、経済界・政界・官界において多大な貢献を果たして

てきた。傑出した諸先輩の足跡を振り返る時、明日に向けた人材の育成とお互いの知的財産の交流、次世代への継承の必要性が痛感される。

国際競争激化の21世紀の扉が将に開かれんとする今、日本大学土木系各学科および卒業生の在り方と役割も又厳しく問われている。20世紀の大量生産・大量消費思想から脱却し、質的充実が要請されていることは周知の通りである。それに応えるために高潔な人間性に裏付けされた専門的な知識を持つ人材が求められている。国際的評価に耐える日本大学土木系各学科そして卒業生を維持発展させるためには過去の栄光や伝統に安住し、変革を回避することはもはや許されない。

この激変する21世紀に向

けた新しい社会的要求に応

えるため、更なる学術技術

の研鑽と進展を目指して、日

本大学土木系各学科の卒業

生ならびに教員の持つ、経

験と知識、勇気と智識を結

集し、産・官・学におけるリ

ダーたる人材を育成するた

めの組織化と活動は、将に焦

眉の急と考える。以上よう

な明確な目標を持った組織

を設立すべしとの声は、母校

を愛する卒業生ならびに教

員から日毎に高まっている。

一方、今日、日本大学土木

系各学科ならびに卒業生に

対する社会の評価は、誠に厳

しいものがあり、私共はそれ

を真摯に受け止めるべきで

ない。栄光の歴史と伝統に

安住することなく、卒業生と

教員との絆を一層深く、従来

の親睦的諸会とは異なる各

学部の特徴を生かす「母

校の発展のみならず豊かな

国土の形成、経済基盤の整

備、国民生活の向上と福祉の

進展に貢献する「日本土木

会」の設立は誠に時宜を得て

いると確信する。

これらの目的を達成する

ため、各種事業を積極的に行

ない、高い志を持って社会

に裨益する「日本土木会」を

発足させることを提案する。

ここに本会の設立に当たり

り関係各位のご賛同とご協

力を賜りたくお願い申し上げ

る次第である。

喫茶室

二木会(桜三三九会)のご紹介
我々は東京オリンピック開催された昭和三十三年(一九六四)理工学部の卒業生です。我々の定例会をご紹介し

ます。自慢するわけではありませんが、この期は何故か優秀な学友がそろっていて、国、都庁や地方公共団体、民間企業で大活躍をしております。いつしか毎月第二木曜日に定期的に集まるようになり(二木会)、情報交換や相互扶助、時には議論、あるいはゴルフコンベンなど友情に溢れた集団になっていきます。かつては、職場で最高?のポストに就いた学友も、最近六十歳を過ぎ、勿論第一線で活躍の方もお

訃報

理工学部土木工学科専任講師の若下藤紀先生(61歳)が平成14年11月8日(金)午前10時44分、すい臓がんのため逝去された。

橋工学を専門とされ教育、研究、学会と幅広く活躍をされていただけに惜しまれる結果となった。また、12月23日(月)には、東京カーデンパレス高千穂の間において若下先生を偲ぶ会がしめやかに執り行われた。多くの関係者、教え子らが参列し、その数の多さからも先生の人柄、生前の活躍が伺えた。

若下先生の生前のご活躍に敬意を表するとともに若下先生のご冥福をお祈り申し上げます。(文責：坂井 淳)

日大土木会事務局
101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
tel:03-3259-0662
fax:03-3293-3319
e-mail: doboku@civil.cst.nihon-u.ac.jp
http://www.nu-dobokukai.com